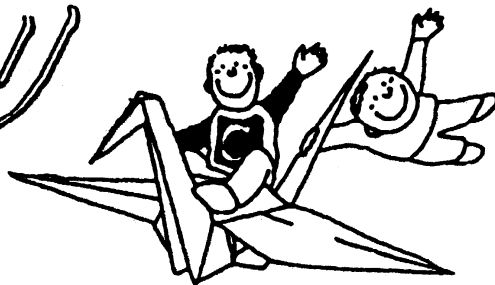


ジュラーヴリ

ЖУРАВЛЬ



チェルノブイリ事故28周年のつどい

チェルノブイリとフクシマを結んで

～フクシマを核時代の終わりの始まりに！～

- *福島からの報告 佐々木道範さん (NPO 法人 TEAM 二本松理事長)
- *ベラルーシ訪問報告 振津かつみさん (チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西)
- *紙芝居「見えない雲の下で」

◎バザー：ベラルーシ民芸品・手作りケーキ等

購入したてのベラルーシの民芸品が多数あります！
おいしい手作りケーキもどうぞ！



日時：4月27日(日) 午後1時30分～4時30分

場所：大阪市立総合生涯学習センター
第1研修室 (大阪駅前 第2ビル/5階)

主催：チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西

問い合わせ先:0797-74-6091(たなか)

072-253-4644(いのまた)

cherno-kansai@titan.ocn.ne.jp



今年の3月11日でフクシマ事故から3年が経ちました。福島県では、未だに13万5千人もの人々が避難生活を強いられ、事故関連死は地震・津波などの直接死を上回り1600人を超えました。帰還・除染・放射性廃棄物等問題は山積し、人々は決断を迫られています。福島県と近隣県、北関東を含む広大な地域が「放射線管理区域」レベル以上の汚染となり多くの人々が放射能と向き合う生活を強いられています。しかし残念ながらフクシマ事故は風化させられようとしており、安倍政権はまるで事故などなかったかのように原発の再稼働を目論んでいます。原子力規制委員会は川内原発1・2号機を「模範原発」として、地震動の過小評価を行い、優先的に審査を進めています。原発の再稼働を許してはなりません。

今回、福島県二本松市から子供たちを放射能から守る取り組みに尽力されている佐々木道範さんをお迎えし、お話を伺います。

4月26日で旧ソ連・チェルノブイリ原発重大事故から28年を迎えます。放射能汚染と被ばくは今も続き、さらに次の世代まで続きます。4月初旬に代表がベラルーシを訪問し、ベラルーシの汚染地・クラスノポーリエやミンスクのマリノフカ地区の「移住者の会」、更にはロシアの被災地ブリャンスク州のノボツィプコフを訪問し、支援と交流を深めてきます。チェルノブイリ事故から28年を迎える被災地の様子や人々の今をホットに伝えてもらいます。「チェルノブイリとフクシマ」を結んで、交流と被害者支援を強めていきましょう。多くの方の参加をお待ちしています。



「私は森に行きたい」(ベラルーシの子どもの絵)

佐々木道範さん プロフィール

1972年生まれ 真宗大谷派眞行寺住職 同朋幼稚園理事長 NPO法人TEAM二本松理事長
東京電力福島第一原発事故以降、食品の放射線量測定、子どもの一時保養事業、内部被曝検査、除染等の子ども達を放射能から守る活動を続けている。

関電に申し入れに行きましょう！

関西電力は大飯3・4号機・高浜3・4号機を再稼働させ、あくまで原発を維持しようと懸命です。再稼働を許さず、原発からの撤退、再生可能エネルギーへの転換を求めて申し入れを行いましょう。それぞれの意思を関電にぶつけましょう。申し入れ書を持って集まりましょう

4月25日午後4時から
(3時50分に関電本社 1階受付前に集まりましょう！)

チェルノブイリとフクシマを結んで…

支援とメッセージを届けます

フクシマの思いも伝えてきます

4月8日、いよいよベラルーシとロシアの被災地に向けて出発です。このニュースレターが皆さんのお手元に届く頃には、もう通訳の松川直子さんと二人でベラルーシのクラスノポリエに着いていることでしょう。今回も、皆さんから寄せられた支援カンパやメッセージをベラルーシの被災地に届けたいと思います。

先日、松川さんがベーラさん宅に電話をしてくれたのですが、昨年、脳卒中で倒れ自宅療養中の夫のニコライさんが電話口に出られたそうです。順調に回復に向かっておられる様子で、ホッとしました。ベーラさんは、クラスノポリエの学校、幼稚園、病院、障害者センターなどの訪問、区長さんへの表敬訪問などの準備を下さっています。病院や学校では、「フクシマの現状をぜひ、話してほしい」との強い希望があり、パワーポイントで写真等を見せながら、お伝えしてきたいと思います。また、福島県北端の新地町の旅館の女将さんが、震災当時の体験を地元の漁師さんから聞いた話をもとに作成された紙芝居「命の次に大切なもの」を、松川さんにロシア語に訳してもらって紹介したいと準備中です。

チェリコフでは一昨年亡くなられたバーリャさんによって、プラレスカ(子供保護施設)の園長さんで、私達とも20年来の友人のズベトラナさんが、ベーラさんと連絡を取り合いながら受け入れ準備を下さっているそうです。一昨年は、ニコライ校長が入院中で訪問できなかったベリニチの寄宿学校にも、今回は立寄ることができるとのこと。

ミンスクのマリノフカ地区の「移住者の会」では、代表のジャンナさん宅にホームステイでお世話になります。福島の飯舘村から避難されている方々の支援に取り組む日本のNGO「エコロジー・アーキスケープ」(EAS)の藤島さん、浦上さんと、ミンスクで合流します。EASとしては、チェルノブイリの「移住者」の経験を聞き、フクシマ支援に活かしたいとのこと。

その後、ロシアの被災地ノボツィプコフに移動します。ノボツィプコフでは、私達が支援してクラスノポリエの子供たちを保養に送っている「ノボ・キャンプ」を運営しているNGO「ラディミチ／チェルノブイ

りの子供たちのために」が活動しています。「ラディミチ」の代表のアントンさんにコーディネートをお願いして、ロシアの被災地の実情視察、事故処理作業者の聞き取り、そして「ノボ・キャンプ」の見学もさせて頂くことになりました。ノボツィプコフの街は、飯舘村と同じレベルの高汚染地にあるのですが、人口が多いために移住を断念し、ほとんどの住民が事故後ずっと住み続けた地区です。ロシアの被災地の実情は、これまで日本ではあまり伝えられていないと思いますので、しっかりと視察して帰国後、ご報告したいと思います。

日本では、フクシマ原発での重大事故から3年を迎えましたが、事故の収束にはまだ何十年も要します。被災地では問題は山積みそのままですが、「復興」のかけ声のもとに事故が「風化」させられようとしています。「チェルノブイリとフクシマ」を結び、両方の被害者支援の輪を拡げ、被災地の皆さんとともに、また全国、全世界の皆さんとともに「核のない世界」をめざしたいと思います。

4月27日「チェルノブイリ事故28周年の集い」で報告をします。ぜひご参加下さい！

チェルノブイリとフクシマ支援カンパに、引き続き、ご協力お願いします！

事務局:振津かつみ

現地訪問予定:

- 4月 8日:関空発、モスクワ着。夜行でモギレフへ。
- 9日:早朝モギレフ着、車でクラスノポーリエへ。
- 10日:クラスノポーリエ交流(病院、学校、幼稚園、障害者センター等、訪問)。
- 11日:チェリコフ(幼稚園、子供保護施設)、ベリニチ(寄宿学校)に立寄る。
ミンスクに移動。
- 12日:ミンスクのマリノフカ滞在「移住者の会」交流。EASのメンバーと合流。
- 13日: EASのメンバーとともに「移住者の会」交流。
- 14日:マリノフカの学校訪問。ミンスク市内見学。ノボツィプコフへ移動
- 15日:「ラディミチ」訪問。事故処理作業者と会談。
- 16日:「アート教室」訪問。クリンツィの事故処理作業者と会談。ノボ・キャンプ見学。
- 17日:汚染地の農場見学。避難した村を見学。事故処理作業者と会談。
夜行でモスクワへ移動。
- 18日:朝、モスクワ着。夕刻、モスクワ発、機中泊。
- 19日:関空着

ベラルーシ訪問前の気持ち

出産・育児でしばらくお休みしていたベラルーシ訪問に今年から復帰することになりました！ この間行きたくて行きたくてたまらなかったのですが、子どもが小さくて叶いませんでした。その子どももう5歳！ お父さんに預けて母は旅に出ます。

いつからベラルーシに行っていないか調べてみると、最後に行ったのは2007年。7年もの歳月が流れていました。この間いろんなことがありました。一番大きかったのは東日本大震災と福島原発事故。そして、ターニャさんやワーリャさんの死…



しつこいようですが、チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西が招へいたヴェーラさんとワーリャさんの通訳をしたことが私の通訳デビューでした。そして、また子育て後の出張通訳をベラルーシ訪問で果たすことができます。

もちろん、現地のみなさんは「フクシマの今」を知りたがっています。私も報道では知り得ない生の情報を振津さんに教えていただき、それを現地のできるだけ多くの方に知っていただく努力をしたいと思います。

しばらく離れていたもので、専門用語などをしっかり勉強し直して挑みたいと思います。それになにより、ベラルーシのみなさんとの再会が楽しみです。ヴェーラさんは来日の際に会うことができましたが、夫のニコライさん、娘のオーリャさん、「移住者の会」のジャンナさん…。チェリコフのワーリャさんが亡くなってしまったので、ワーリャさんの甥っ子のアンドレイや私の元文通相手のイーラに会えるかわかりませんが、みなさんの元気な様子が見れたらなと思っています。また、みなさんの現地での様子などを後に報告させていただきます！

通訳:松川直子(モスクワ在住)

さよなら原発 3. 9 関西行動

—すべてのいのちと未来のために—

福島第一原発事故から3年、事故収束の目途は立たず、崩壊した原発からは今なお放射能が放出されています。

被災地の人々の生活は根底から覆り、先の見通しがつかないまま、福島では13万5千人が避難生活を余儀なくされています。北関東を含む広大な地域が「放射線管理区域」レベル以上の汚染地になり、

数百万人がそこで暮らす生活を強いられています。なのに安倍政権により原発再稼働が画策されているのです。

フクシマを繰り返してはならない、脱原発こそが安全・安心社会の基礎なのだと多くの人々に訴え、共通の思いにしたいと、毎年3月に関西の市民グループ・市民・労組などがいっしょになって、活動をしています。

今年は特別企画として午前中北区民センターで室内集会<講演:小出裕章・特別報告:地脇美和(福島)水上賢市(福井)・和太鼓や歌とダンスなど>、午後は前段集会・本集会が扇町公園で開かれ、ゲストアピール、うた、各グループの1分間アピールが行われ、その後3つのコースに分かれてパレードしました。

“チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西”は他のグループと一緒に、特別企画の分科会としてDVD『サクリファイス』『もんじゅハイライト』『チェルノブイリー私たちの痛み』などの上映と、チェルノブイリ・フクシマ・被曝労働がテーマの写真展会場を受け持ちました。

当日は多くの方々が来られ本会場は満員(立ち見)、このような集会に初めて参加する方々も、分科会室でDVDを見て、展示の写真やパネルにも熱心に見入っておられました。



熱心に DVD を見る



またロビーでミニ・バザーを行い、毎年の訪問で持ち帰るベラルーシの特産品マトリョーシカを「かわいいわぁ」と手に取った方に「この売り上げがチェルノブイリの救援になります」と説明すると「じゃあ、〇〇ちゃんのため」と快く買ってくださいたりで、救援カンパを得ることができました。タナカ製菓のケーキも何とか完売で、やれ嬉し。

また “ゴー！ゴー！ワクワク・保養キャンプ”のメンバーもいっしょに記録ブックを販売(これも保

養カンパに)し、理解と協力とを呼びかけました。

共感してくださる人をコツコツ増やしてゆくの大切なんですね。新しく関心を持った方が継続している。いろいろな情報を吸収し、活動の仲間となってくださいることを願っています。

午後の前段集会・本集会には7000人が参加。青空のもと、舞台では、歌やアピールなどがにぎや





かに活発に繰り広げられ、最後に「この愚かな原発時代を終わらせよう」と集会アピールが読み上げられました。その後、パレードに出発。「原発反対」「再稼働反対」「もんじゅを廃炉に」「フクシマ守れ」「東電解体」などのシュプレヒコールを元気にあげながら、市役所に向かうコースを歩きました。沿道には人は少なかったのですが、それでもビルの窓や地下鉄入口あたりでは手を振って応えてくださる方もいました。脱原発をめざして原発の再稼働に反対し、「フクシマを核時代の終わりの始まり」にするために、フクシマを風化させず、もっともっと運動の輪を広げていきましょう。

田中:猪又

「おもちゃ」は、びわこ☆123キャンプへ

2013年12月、「発足23年」の集会時寄附していただいた、おもちゃ問屋さんからおもちゃは、とっても沢山あったので、福島の子どもたちと、関西での保養キャンプにプレゼントしました。

今年も関西各地で春のキャンプが開かれています。関西での保養連絡会と相談し、「びわこ☆123キャンプ」で使ってもらうことになりました。このご縁で参加した素敵なキャンプの様子をお伝えします。

【びわこ☆123】

3月26日から2週間開かれたびわこ☆123は、こどもと親45名の大所帯。「家と同じに」「のんびり ゆっくり」がキーワードのびわこ☆123ですが、ボランティアその他入れて70~90人が動くので、食事と風呂だけでなんとも迫力でした。

【菜の花・つくし・梅】今年は、琵琶湖の南の田園地帯に使用されていない教会「フィンランド学校」を牧師さんの御好意で貸していただけたとのこと。施設は居心地良く、周りの自然も申し分ありませんでした。



サンバの後の記念写真

早春の畑が広がり、畦には菜の花とツクシと野草、桃と梅が咲き乱れ、遠くに琵琶湖の湖面が光っています。

【白樺パシパシの風呂】

建物はしばらく使っていないのでテントウムシやカメムシが出てみんな騒いでしたが、フィンランド仕様のおしゃれな内装です。ただ、風呂はベラルーシみたいに大きな蒸風呂とシャワーだけ。白樺でパシパシして入るらしい。参加者はとても適応できないので、大きな簡易浴槽を持ち込みました。こ

れに順次子どもを入れるのが大変そうでした。

【おかん】

「おかん」とみんなに呼ばれている責任者の藤本さんの人徳？で多くのサポーターが集まっています。「自然でおいしいを求める」食事担当には、生協関係のスタッフを中心に近所の主婦や私も参加。見守り担当は、大学のボランティアサークルや募集で集まった高校生やキリスト教教会関係。近所の小児科医院の若い看護師さんも参加してました。前々回参加者だった子どもが、今度は学生になってボランティア…とかもね。

【寄附から考える献立】

教会関係の縁で、「ホテルのシェフの料理」とか、知人の知人で「サンバ」の先生が来たりや、自治体の好意で「びわこホール・アートフェスティバル参加」などがありました。

お金はあまり無いので、食材は専ら寄附頼りです。近くの農家や自然派のパン屋さんから本当に沢山、好意の寄附がありました。ただし献立は来たもの次第。小松菜 158 束、新タマネギ 20 箱、ほうれん草 200 束…どないする？ 何にする？？？



ほうれん草のオーブン焼きトースト和え

【サンバ・おもちゃ】

写真はサンバのあとの記念写真です。こどもたちは屈託ないが、今も福島や那須塩原のホットスポットではそれなりの線量のままです。あぜ道の散歩・つくし取り…なんでもない遊びが貴重な春のキャンプです。

おもちゃは、イベントで使用予定とのこと。お役に立てて幸いです。

ゆみ

「国の責任による福島県の19才以上の甲状腺に係わる医療費無料化要請書」 にご賛同をお願いします！

すでにご存知の方も多いかと思いますが、福島県「県民健康管理調査」の小児甲状腺検査で、すでに75人が「ガンまたはガンの疑い」と診断されています(うち一人は手術の結果、良性と診断された)。さらに、この75人も含む871人が「通常診療」として、医療保険での治療(手術も含む)や定期検査等を受けなければならないと診断されています(2013年末現在)。事故から3年経った今、おそらく871人のうちの半数近くが、すでに19歳を超えています(注1)。福島県では現在、「子育て支援事業」として18歳以下の子ども達には県による医療費支援があります(注2)。しかし事故当時18歳以下だった子ども達も、約1割がすでに成長して19歳以上になり、保険診療による医療費の自己負担が生じています。

私は医師として、事故後、毎月福島県に通い、被災地の方々の「健康相談」を行ってきました。その中でも、昨年あたりから、子どもさんが二次検査の結果、経過観察や精密検査が必要と診断され

たという、お母さん方から相談を受ける機会が何度かありました。あるお母さんは、「私の子どもはもう高校を卒業して他県の専門学校に通っています。二次検査の結果、すぐに細胞診は必要ないが、超音波検査による経過観察が必要と言われました。数ヶ月に一度、福島に戻ってきて県立医大で定期検診を受けなければなりません。今後の検査は保険診療なので医療費がかかります。福島に戻ってくる交通費もバカになりません。こんなことがずっと続くのでしょうか…」と、こぼしておられました。また、別のお母さんは「うちの息子は事故当時高校生でした。震災直後は、放射能が流れてきていることも知らされなかったので、近所の人に頼まれて屋根に登って修理などもしていました。また放射線量の高い地域で家業の手伝いもしてくれました。きっと被ばく量も他の子ども達よりも多いと思うんです。その子が先日、甲状腺二次検査を受け、医師から穿刺細胞診を受けなさいと言われました。まだガンと言われたわけではないですが心配です。本人もとてもショックを受けています。もしガンと診断されて手術ということにでもなれば、もう19歳なので入院治療には医療保険の自己負担を払わねばなりません。震災と原発事故で家業も思わしくなく、収入もかなり減ってしまい、今でもぎりぎりの生活なのに、その上に医療費がかかるとなると、いったいどうしたらいいのでしょうか…。人の命や健康も金次第ということなのではないでしょうか…。原発事故さえなければ…」と、切実な思いを訴えておられました。

原発事故によって放射性ヨウ素が放出され、それを子ども達が吸入したり、摂取したりした事実がある以上、今、甲状腺におきているさまざまな所見が「事故による被ばくのせいでない」とは断言できません。原発事故がなければ38万人もの子供たち全員が甲状腺検査を受ける必要もなく、これだけ多くの子供たちが経過観察や治療が必要との診断を受けることもなかったのです。国策として原子力を推進した結果として重大事故と放射能の大量放出を招いた責任、適切な情報提供を行わずに人々を被ばくさせた責任、避けられたはずの被曝を避けるよう指示しなかった責任、事故後早期に甲状腺被ばく量をちゃんと測定・評価しなかった等々、国の責任は重大です。

このように私が相談を受けた方々は、ほんの「氷山の一角」にしか過ぎません。今後も事故から年数が経ち、このような状況の人々が増えて行くことが予想されます。特に、生活が困難な家庭では、19歳以上の医療費負担は切実な問題です。一日も早く、福島県の19歳以上の医療費の支援を、少なくとも甲状腺に係わる医療費の無料化を行わせるよう、皆さんとともに、強く国に求めたいと思います。これは「子ども被災者支援法」の医療費減免の枠内でも早急に検討し実現すべき課題です。同封の「要請書」と賛同呼びかけ文をお読みになって下さい。そして賛同(団体、個人)をよろしくお願いします。

「救援関西」も賛同団体ですので、賛同は当方のメール<cherno-kansai@titan.ocn.ne.jp>でも受け付けます。よろしくお願いします！

振津かつみ

注1:福島県のデータによると、二次検査を受診し結果確定した人の約 65%が「通常診療」となっている。仮に 19 歳以上の二次検査対象者 678 人の 65%が「通常診療」になったとすると 440 人となる。しかし通常は10歳代後半では、低年齢の子ども達と比べて甲状腺検診の有所見者の割合がより高いので、この人数よりも実際には多いと考えられる。

注2:事故後、福島県が被災自治体に対する「国の事業」として18歳以下の医療費支援を政府に求めたが、政府が拒否したため「県の事業」となった経緯がある。

◇♣♥♠◇♥♠◇♣♥♠◇♣♥♠◇♣♥♠◇お知らせ♥♠◇♣♥♠◇♣♥♠◇

☆関電 申し入れ行動

4月26日の「チェルノブイリの日」を前に脱原発・再稼働反対を申し入れましょう！

日時:4月25日(金) 16時～

場所: 関電本社

(15時50分に1階ロビー申し入れ書を持って集合)

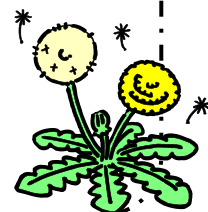
カンパ・会費の納入ありがとうございました！！

(2014.2.16～2014.4.8)

木村英子 戸張あかり 古村剛 大田美智子 木下佳子 後藤田まさ子 齋藤由佳 東野セツ 松尾由美
井上和歌 横山清美 田原良次 中沢浩二 門林洋子 遠山薫 山平利恵 田中章子 振津かつみ 立間節
子 中山一郎 向井千秋 小林まゆみ 齊藤充子 久保美恵子 清水昭 佐藤大介 尾崎一彦 堀口眞也
住吉純子 小谷美智子 野中マサ子 泉迪子 阪口博子 木下佳子 鎌田妙子 平井由貴子 畑章夫 森本
良子 末田一秀 浜田守彦 久保良夫 久保きよ子 猪又雅子 匿名1名 (順不同・敬称略)

カンパ・会費納入のお願い

いつも恐れ入りますがカンパ・会費納入のご協力をよろしくお願いいたします。今回はベラルーシを訪問し、支援も行ってきます。現地の方々と相談しながら、被災地の方に本当に必要とされていることに大切に使います。どうぞご協力をよろしくお願いいたします。なおすでに納入いただいた方には重複をお許しください。



ニュース発行:チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西事務局

cherno-kansai@titan.ocn.ne.jp

連絡先:〒591-8021 堺市北区新金岡町 1-3-15-102 猪又方

0722-53-4644

郵便振替:00910-2-32752

口座名:チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西